

第4章 歴史文化資源の保存・活用に関する将来像と視点

第1節 歴史文化資源に関する将来像と将来像実現に向けた視点

1-1 佐伯市が目指す将来像

本市が実施した歴史文化資源についてのアンケート（歴史・文化・自然に関するアンケート調査：p56）によると、市民にとって歴史文化資源は「地域にとって大切なもの」「未来へ伝えていくべきもの」との認識でありながら、「よく知らない」「難しい」というイメージを抱いており、「自分の生活には関係がない」と捉えていることがうかがえる。しかし、市民が様々な歴史文化資源を自身や地域のアイデンティティの一つとして理解しなければ、保存・継承・活用へは結び付かない。そのためには市民一人一人にとって、地域にある歴史文化資源が身近なものであるとの認識を広め、歴史文化資源と関わる敷居を下げるのが重要である。加えて、少子高齢化に伴う人口減少などにより、衰退が加速する地域社会の維持や活性化も、歴史文化資源の保存・継承につながる大きな課題である。

歴史文化資源が生活に身近なものとなって親しまれることで、市民がその価値を知る機会が増え、適切な保存のみならず積極的な活用へと結びつき、地域を活性化させる一助となる。これによって歴史文化資源の存在が広く知られ、さらに親しみを持って生活の中に根付いていく、といった好循環を生み出していく。これは、歴史文化資源を守り未来に伝えるサイクルが形成されることを意味しており、本市の『第2期佐伯市総合計画』が目指す、循環型共生社会の実現と方向性を同じくするものである。

そこで、「市民だれもが佐伯市の歴史文化に誇りを持ち、語る事が出来る」ことを本市が目標とする将来像に定める。

1-2 将来像実現に向けての視点

前述した市の将来像を達成するために、大きく3つの視点を挙げる。これら3つの視点はそれぞれ関連し、循環している。地域総がかりで歴史文化資源を守り語り継いでいくためには、そのサイクルが順調に機能しなければならない。

(1) 歴史文化資源を調べて受け継ぐ

市民が本市の歴史文化に誇りを持って語るためには、歴史文化資源が、適切に保存・継承されていることが前提である。そして適切な保存・継承のためには、本市内のどこに歴史文化資源があるのか、その歴史文化資源はどのような特徴と価値を持つのかを、的確に捉えておく必要がある。このような調査活動の成果は、市民が歴史文化資源の価値と楽しさを知ることにも還元され、さらなる調査や保存・継承への意欲にもつながるものである。また、歴史文化資源の担い手の確保や、所有者の適切な管理を促し、未来への継承を確かなものとする取り組みが必要である。それに加えて、記録による保存や、行政による保管も継承のあり方の一つとして想定

するほか、調査や保存・継承の支援を行う、行政の体制を整えることも重要である。その上で、犯罪や災害による歴史文化資源の喪失やき損、散逸を防ぐ体制作りも求められる。

(2) 歴史文化資源の価値と楽しさを知る

本市の歴史文化に誇りを持って語るためには、市民が本市の歴史文化資源について、正しく知っていることが重要である。この「知る」という言葉の中には、歴史文化資源の特徴や背景に関する正しい知識を得るだけでなく、それによって、歴史文化資源の魅力や面白さといった楽しさを感じることも含んでいる。このように、歴史文化資源に対してポジティブな感情や興味を抱くことは、市民がそれらを身近なものとして捉え、将来へと受け継いでいくための重要なステップである。

そのために、まずは個々の歴史文化資源に関する情報の蓄積と、積極的な発信が必要である。さらに、それらを組み合わせてつむがれるストーリーによって、歴史文化資源相互の関連や、身近な事象との結びつきを理解することで、歴史文化に対する興味や関心を惹くことが重要である。また、知識を得る機会としての授業や講座の開催だけでなく、体験を伴うイベントの実施も有効と考えられ、歴史文化施設や観光施設が、こうした活動や積極的な情報発信の拠点となることが期待される。さらに、市民が実際に歴史文化資源に触れやすい環境を整え、身近に感じる機会を創出することも重要である。

(3) 歴史文化資源を地域づくりに活用する

歴史文化資源の調査や保存・継承には、地域の活力がなければ難しい。地域の活性化は様々な行政分野・民間事業者が取り組んでいるところであるが、地域のアイデンティティを構成する歴史文化資源を、そのツールとして活用することも有効である。歴史文化資源を対象とした清掃活動や、古くから受け継がれてきた伝統芸能や行事の催行は地域住民の一体感を生み、将来の歴史文化資源の後継者や担い手の育成へとつながっている。また、歴史文化資源を観光や産業、教育といった分野で積極的に活用し、地域社会にそのメリットを示すことで、調査・保存・継承や情報発信などの活動に対する、金銭的・人的な支援を得やすくなることが期待できる。

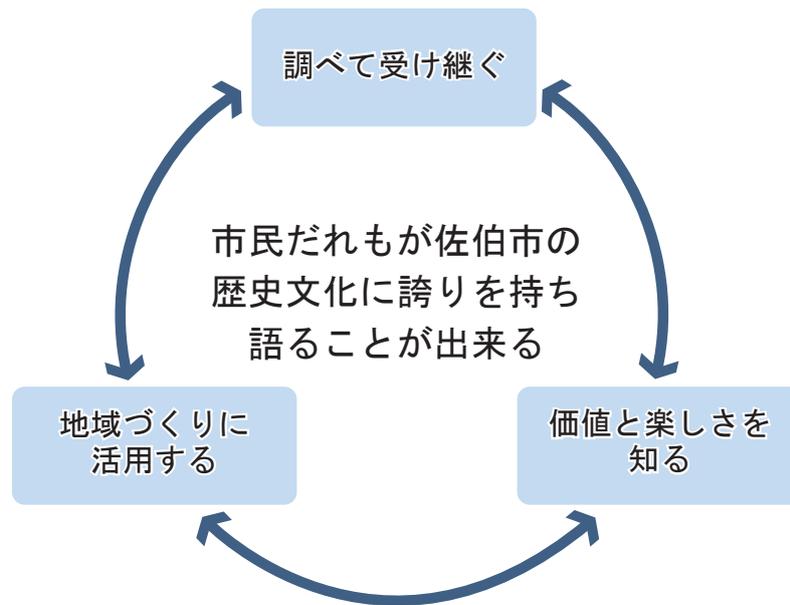


図 4-1 歴史文化資源に関する将来像を支える3つの視点とその循環

第2節 歴史文化資源の保存・活用に関する課題と方針

第1節では歴史文化資源に関する将来像とその実現に向けた3つの視点を提示したが、次に、それらの中に含まれる課題と、それに対応するための方針を整理した。

2-1 「歴史文化資源を調べて受け継ぐ」ための課題と方針

(1) 歴史文化資源の把握と評価

【課題】

① 所在や状態の把握調査が不十分

市内の歴史文化資源に対して、これまで県や合併前の市町村による把握調査が行われているものの、対象範囲や分野に偏りがあり、佐伯地区以外での戦争遺跡や、主に宇目地区で想定されるキリシタン関連の歴史文化資源、本市全域での郷土食に関する調査は行われていない。これらを対象とした、歴史文化資源の把握調査の実施が課題である。

② 正確な評価のための詳細調査が不十分

歴史文化資源を効果的かつ適切に保存するためには、歴史文化資源の正しい価値評価が必要である。未指定の歴史文化資源はもちろんのこと、指定等文化財においても最新の研究成果を基に評価する必要がある。しかし、現状ではこのような詳細調査が実施された歴史文化資源は限られており、課題として挙げられる。

③ 歴史文化施設の収蔵資料の整理が不十分

歴史文化施設には多くの資料が収蔵されているが、人員不足や収蔵資料の増加により、その整理が進んでいないのが現状である。収蔵資料の利活用が図れるよう、資料整理に向けた体制整備が課題である。

【方針】

- ① 戦争遺跡・キリシタン関連歴史文化資源・郷土食に関する把握調査の実施
- ② 計画的な詳細調査の実施
- ③ 継続的な歴史文化施設収蔵資料の整理

(2) 未来への継承**【課題】****① 地域に伝わる伝統芸能・行事の担い手不足への対策が不十分**

現在、本市の人口は年々減少傾向にあり、少子高齢化の問題が深刻化している。そのような中で、地域に伝わる伝統芸能や行事の担い手が不足しており、伝統芸能・行事が消滅の危機に直面している地域も少なくない。少子高齢化の中で担い手を増やし、地域に伝わる伝統芸能・行事を存続させていくことが課題である。

② 歴史文化資源に関する情報の喪失や散逸の危険性への対策が不十分

歴史文化資源の中には、各家庭でこれまで大切に受け継がれてきたものも多い。今後も歴史文化資源そのものや、それに付随する情報を大切に継承することが望ましいが、場合によっては、世代の交代を機に引き継がれるべき情報が喪失したり、資料そのものが散逸したりするおそれがある。さらに、これまでに本市が市民などから寄贈・寄託を受けた歴史文化資源や、令和元年度（2019）から編さんを開始した『佐伯市誌』のために収集した歴史文化資源についても、適切な保管と継承が必要である。歴史文化資源が適切に引き継がれる環境づくりが課題である。

③ 日常的な管理の中でのき損の危険性への対策が不十分

歴史文化資源は未来に残すべきものであると認識しながらも、その適切な管理方法が分からないことにより、き損などのおそれが生じる。一方で、適切な管理方法が分からない結果、どうしてよいか分からずに手を付けず放置されているものもある。また、歴史文化資源がき損した場合の修理や、適切に保存・管理していくための整備等について、そのための費用負担が課題となって実施に至らないことも考えられる。これらのことから、市民に歴史文化資源の適切な管理方法の周知とともに、金銭面での支援が必要である。

④ 歴史文化資源に対する適切な記録保存が不十分

歴史文化資源をなるべく破壊や改変をせずに将来に残す努力が必要であるが、中には、やむを得ず保護できないケースも存在する。そうした事情で失われてしまう歴史文化資源に対して、事前に適切な記録保存を実施するべきであるが、埋蔵文化財を除いて、現状では十分に実施できているとは言えない。失われる歴史文化資源に対して、事前に適切な記録保存を行うことが課題である。

⑤ 歴史文化資源を収蔵する施設の不足

歴史文化資源を適切に保管する上で、管理施設の確保は欠かせない事項である。しかし、現状で歴史文化施設の収蔵庫はすでに収蔵スペースが限界に達してきており、新たな資料の受け入れが困難となりつつある。加えて、近年では人口減少など

により、所有者による管理が難しくなった歴史文化資源の寄贈・寄託希望が増加傾向にある。さらに、『佐伯市誌』編さんのために本市が収集した資料も多数ある。今後、歴史文化資源を適切に保管する施設の確保が課題である。

【方針】

- ①-1 伝統芸能・行事を継承する機会の創出
- ①-2 伝統芸能・行事の保存・継承活動の支援
- ②-1 歴史文化資源の定期的な現状把握
- ②-2 歴史文化資源の文化財指定等の推進
- ②-3 市が所有する歴史文化資源の確実な継承
- ③-1 歴史文化資源の日常的な取り扱い方法の周知
- ③-2 歴史文化資源に関する連絡体制の整備と周知
- ③-3 指定等文化財の保存・修理事業に対する支援
- ④ 緊急性に応じた適切な記録保存の実施
- ⑤ 歴史文化資源の収蔵施設の確保

(3)「守る」体制作り

【課題】

① 多様な分野の専門職員の不足

市内の歴史文化資源を効果的に保存・活用していくためには、それに精通した多様な分野の専門職員が配置されることが必要である。しかし、現在は業務に従事する人材の確保が困難になっている。また、建造物の指定文化財を有することや、県下でも天然記念物の指定件数が多い自治体であるにも関わらず、建築や自然系の専門職員が配属されていないことが課題である。

② 防犯・防災体制が不十分

近年、歴史文化資源の盗難事件や汚損事件、予期せぬ風水害等による被災が各地で発生している。そのような中で、地域に伝わる歴史文化資源を守り、未来へ伝え、守り残すためには、防犯・防災の体制を整えることが重要である。しかし、現状では防犯・防災体制が十分に整っていない。万が一の事態に備えるために、防犯・防災体制の整備が課題である。

③ 被災後等のレスキュー体制が未構築

予期せぬ自然災害により被災した歴史文化資源の応急措置や復旧（修理・クリーニング等）は、今後、歴史文化資源を守り、未来に伝えていくために必要な作業である。しかし、現在は、報告が上がったものへの個別対応にとどまっており、全体を網羅するようなレスキュー体制が未構築である。万が一被災した場合でも、より多くの歴史文化資源を守るために、国立文化財機構文化財防災センターと連携したレスキュー体制の構築が課題である。

【方針】

- ①-1 歴史文化資源に関わる専門職員の計画的な採用・配置

- ①-2 歴史文化資源に関わる市内外の専門家等との連携体制の構築
- ①-3 歴史文化資源に関わる人材や団体の資質向上
- ②-1 歴史文化資源に関する緊急連絡体制の構築
- ②-2 歴史文化資源の防犯・防災対策の推進
- ③ 被害の全体を網羅したレスキュー体制の構築

2-2 「歴史文化資源の価値と楽しさを知る」ための課題と方針

(1) 情報発信

【課題】

① 歴史文化施設が実施する講座の参加者の減少

歴史文化施設が担う市民向け講座等の実施は、「歴史文化資源の価値と楽しさ」を市民に発信する有力な方法の一つと言えるが、近年その参加者が減少傾向にある。市民が歴史文化資源の価値を知り、楽しさに触れる機会を増やすことが課題である。

② SNS・Webコンテンツの活用が不十分

近年、IT技術の発達に伴い、SNSをはじめとするインターネットを介した情報発信や交流が一般化している。しかし、現状ではそれらの機能を十分に活用できているとは言えない。現状の情報発信手段に加えて、SNSやWebコンテンツの活用を推進することが課題である。

③ 新聞社やテレビ局等メディアの活用が不十分

講座や展示等の広報手段の一つとして、新聞やテレビ局等のメディアを活用することが挙げられる。しかし、現状ではその手段を十分に活用できているとは言い難い。今後、メディアに対しての情報提供と情報発信の依頼を積極的に進めていくことが課題である。

④ 調査研究成果の公開が不十分

これまで本市が行った調査研究の成果は、報告書等にまとめ刊行物として公開してきたが、発刊部数の都合や配架場所の制約等でその情報の公開が十分とは言えない。調査研究成果を公開し、情報にアクセスしやすくすることが課題である。

【方針】

- ① 親しみやすいテーマ・参加しやすい方法での講座・教室の開催
- ② SNS・Webコンテンツを活用した情報発信の推進
- ③ 各種メディアへの積極的な情報提供の推進
- ④ 調査研究成果の刊行物以外の方法も加えた公開の推進

(2) 取り巻く環境

【課題】

① 歴史文化資源を見学する環境整備が不十分

屋外に存在する歴史文化資源を、見学者が利用しやすいよう整備する必要性があるが、現状その環境整備が行き届いていない歴史文化資源も少なくない。繁茂した

雑草の刈取りや案内看板等の整備、見学道の確保等が課題である。

② アクセスが困難な歴史文化資源に対する代替手段が未整備

歴史文化資源の中には、地理的・物理的な制約やそのものの脆弱性から、実際の見学や閲覧が困難なものがある。このような場合の代替手段が限られているために、歴史文化資源に触れる機会が失われていることへの対策が課題である。

③ 歴史文化資源に関する手続き等のデジタル化への対応が不十分

歴史文化資源の閲覧や利用などの手続きが紙書類での提出を基本としているため、時間や手間を要し、アクセスを妨げる要素となっている。さまざまな行政手続きでIT技術を利用したデジタル化が進んでいるが、歴史文化資源や歴史文化施設に関するものは、取り組みが遅れていることが課題である。

【方針】

- ① 歴史文化資源を見学するための環境整備の推進
- ② アクセス困難な歴史文化資源に対する代替手段の整備の推進
- ③ 歴史文化資源に関する手続き等のデジタル化の推進

2-3 「歴史文化資源を地域づくりに活用する」ための課題と方針

(1) 歴史文化資源を活用した観光振興・産業振興の推進

【課題】

① 市民や地元企業との連携が不十分

歴史文化資源の活用を通して、市民や地元企業と協働事業を実施することは、歴史文化資源に対する市民の愛着や理解を深めると同時に、本市を活性化させる一つのきっかけとなるものである。現状では、年2回開催の佐伯城跡石垣清掃ボランティアの実施が市民の間に定着しつつあるが、その他の企画の開催や地元企業との連携は不十分である。市民や地元企業と連携して、歴史文化資源を活用した取り組みを展開していくことが課題である。

② 行政内部における関係部局との連携が不十分

行政内部における関係部局と連携し、歴史文化資源の観光活用や歴史文化資源を活用したイベントを実施することは、本市の魅力を市外に向けて発信し、地域の賑わいを創出する手法として有効と考えられる。しかし、現在、行政内部での連携が円滑に取れているとは言い難く、関係部局間での情報共有が不足している。関係部局間での情報共有や、協同事業の実施が課題である。

【方針】

- ① 歴史文化資源の官民協働による活用の推進
- ② 行政内部の関係部局の連携強化

(2) 郷土の歴史文化教育への活用

【課題】

① 学校教育との連携が不十分

地域で守り伝えてきた歴史文化資源を次世代へ継承するためには、学校教育において地域の歴史文化を学ぶ場を確保することが必要である。現状では、一部の市内小中学校の社会見学で、歴史文化施設が利用されるにとどまっている。今後、学校教育において郷土の歴史文化教育を進め、将来の担い手たちの育成や、歴史文化資源への理解者を増やすことが課題である。

② 地区公民館やコミュニティセンターとの連携が不十分

地域で守り伝えてきた歴史文化資源を次世代へ継承するためには、学校教育の他に、各地域で行われている社会教育においても、地域の歴史文化を学ぶ場を確保することが必要である。現状では、高齢者教室や市民向け講座の開催はあるものの、社会教育の中で、十分に地域の歴史文化を学ぶ場が確保できているとは言い難い。社会教育向けの事業を展開し、歴史文化資源への理解者を増やし、未来へ守り伝える環境づくりが課題である。

③ 地区公民館やコミュニティセンター所蔵資料の公開が未整備

地区公民館やコミュニティセンターには、これまで地域の人々から寄贈を受けた資料が所蔵されている。しかし、その事実や内容を知らない地域住民も少なくない。地元に残る歴史文化資源の所在を公開し、自らで守り活用していくための環境整備が課題である。

【方針】

① 学校教育との連携強化

② 地区公民館・コミュニティセンターとの連携強化

③ 地区公民館・コミュニティセンター所蔵資料の公開・活用の推進

第3節 関連歴史文化資源群の保存・活用に関する課題と方針

第3章第2節で設定した関連歴史文化資源群は、複数の歴史文化資源を特定のテーマに沿った群として捉え、本市の歴史文化の魅力を分かりやすく発信するものである。

ここでは、前節で整理した歴史文化資源全般の課題と方針をもとに、それぞれの歴史文化資源群の保存・活用に関する課題と方針を整理した。

3-0 関連歴史文化資源群に共通する課題と方針

【課題】

① 関連歴史文化資源群のストーリーや構成に関する周知がなされていない

② 関連歴史文化資源群を効果的に活用するための環境が未整備

【方針】

- ① 関連歴史文化資源群に関する情報発信の推進
- ② 関連歴史文化資源群を活用するための環境整備の推進

3-1 「豊後水道が育む自然と伝統」の課題と方針

【課題】

- ① 海岸部に特徴的な自然林や植物の日常的な維持管理の方針が未策定
- ② 蒲江の伝統的漁業に用いられた道具を網羅した、国指定重要有形民俗文化財「蒲江の漁撈用具」の保存活用計画が未策定
- ③ 「蒲江の漁撈用具」を収蔵展示する佐伯市蒲江海の資料館の活用が不十分
- ④ 地区公民館やコミュニティセンター所蔵資料を活用する環境が未整備
- ⑤ 海岸部の伝統的な郷土食に関する把握調査が不十分
- ⑥ 明治時代から豊後水道の航路を見守る「水ノ子島灯台」の保護措置が未着手
- ⑦ 海岸部の歴史文化を伝える歴史文化資源の観光・イベントへの活用の継続

【方針】

- ① 自然林や植物の日常的な取り扱い方法の周知
- ② 「蒲江の漁撈用具」の保存活用計画の策定
- ③ 佐伯市蒲江海の資料館の効果的な活用の推進
- ④ 地区公民館・コミュニティセンター所蔵資料の公開・活用の推進
- ⑤ 郷土食を対象とする把握調査の実施
- ⑥ 「水ノ子島灯台」の国有形文化財への登録の推進
- ⑦ 歴史文化資源を活用した観光・イベントの継続的な実施

3-2 「地震・津波・水害の記憶と語り継がれる教訓」の課題と方針

【課題】

- ① 防災教育のための地震・津波・水害に関する資料が未整理
- ② 過去3,300年間の津波の痕跡を示す、「龍神池」のボーリング調査成果の取りまとめと公開が未着手

【方針】

- ① 過去の地震・津波・水害に関する記録の整理
- ② 「龍神池」のボーリング調査成果の整理と公開

3-3 「豊予海峡の要衝 軍都佐伯」の課題と方針

【課題】

- ① 市内全域を対象とした戦争遺跡に関する調査・研究が不十分
- ② 佐伯市平和祈念館やわらぎの収蔵資料の整理・公開が不十分
- ③ 市内に残されている戦争遺跡の適切な保存と維持管理の継続
- ④ 豊予海峡の地理的重要性を理解するための取り組みが不十分

【方針】

- ①-1 戦争遺跡の把握調査の実施
- ①-2 主要な戦争遺跡の詳細調査の実施
- ② 佐伯市平和祈念館やわらぎの収蔵資料の整理・公開の推進
- ③-1 市所有施設内の戦争遺跡の適切な維持管理の継続
- ③-2 市内の戦争遺跡の適切な保存・管理の推進
- ④ 豊予海峡周辺の地理的重要性を理解するための企画の実施

3-4 「祖母・傾山系が織りなす自然と大地の恵み」の課題と方針**【課題】**

- ① 山間部に特徴的な自然林や植物の日常的な維持管理の方針が未策定
- ② 落石のため公開を中止している国指定天然記念物「小半鍾乳洞」の再公開
- ③ 国指定特別天然記念物「カモシカ」とその生息環境の適切な保護の継続
- ④ 地区公民館やコミュニティセンター所蔵資料を活用する環境が未整備
- ⑤ 岡藩の経済を支えた「木浦鉱山」に関する調査・研究が不十分
- ⑥ 木浦名水館が所蔵する、木浦鉱山産出の鉱物標本等を活用する体制が未整備
- ⑦ 山間部の歴史文化を伝える歴史文化資源の観光・イベントへの活用の継続

【方針】

- ① 自然林や植物の日常的な取り扱い方法の周知
- ② 「小半鍾乳洞」の再公開
- ③ 「カモシカ」の生息状況の把握と啓発の推進
- ④ 地区公民館・コミュニティセンター所蔵資料の公開・活用の推進
- ⑤ 「木浦鉱山」に関する調査・研究の推進
- ⑥ 木浦名水館所蔵資料の公開・活用の推進
- ⑦ 歴史文化資源を活用した観光・イベントの継続的な実施

3-5 「大野郡宇目郷と日向道」の課題と方針**【課題】**

- ① 日本の道百選に選出された、古代官道の痕跡が残る「日向道」に関する周知が不十分
- ② 岡藩の経済を支えた「木浦鉱山」に関する調査・研究が不十分
- ③ 木浦名水館が所蔵する、木浦鉱山産出の鉱物標本等を活用する体制が未整備
- ④ 岡藩領を中心に色濃く残る、キリシタン関連の歴史文化資源の把握調査が不十分

【方針】

- ① 「日向道」に関する周知と活用の推進
- ② 「木浦鉱山」に関する調査・研究の推進
- ③ 木浦名水館所蔵資料の公開・活用の推進
- ④ キリシタン関連の歴史文化資源の把握調査の実施

3-6 「豊後南部の雄 佐伯氏の栄華」の課題と方針

【課題】

- ① 「榑牟礼城跡」をはじめとする、佐伯氏が拠点とした中世の山城に関する情報発信が不十分
- ② 佐伯氏ゆかりの寺社の把握調査が不十分
- ③ 佐伯市歴史資料館の佐伯氏関連の収蔵資料の整理・公開が不十分
- ④ 佐伯氏の系譜や活躍を伝える情報発信が不十分

【方針】

- ① 「榑牟礼城跡」を中心とした山城に関する情報発信の推進
- ② 佐伯氏に関わる寺社の把握調査の実施
- ③ 佐伯市歴史資料館の佐伯氏関連の収蔵資料の整理・公開の推進
- ④ 佐伯氏をテーマとした講座・教室等による情報発信の推進

3-7 「佐伯の殿様浦でもつ 佐伯藩と毛利家」の課題と方針

【課題】

- ① 国指定史跡「佐伯城跡」の遺構や城山の植生を対象とした保存活用計画が未策定
- ② 佐伯藩の歴史文化の地域ブランド化と活用が不十分
- ③ 歴代藩主や佐伯藩の歴史、領民の暮らし等を伝える佐伯市歴史資料館の収蔵資料の整理・公開が不十分
- ④ 歴代藩主や佐伯藩の特徴に関する調査研究と情報発信の継続
- ⑤ 城下町の風情を残す山際通り周辺や船頭町の景観維持
- ⑥ 歴代藩主や佐伯藩の特徴を伝える歴史文化資源の観光・イベントへの活用の継続
- ⑦ 歴代藩主や佐伯藩の特徴に関する情報発信が不十分

【方針】

- ①-1 「佐伯城跡」の保存活用計画の策定
- ①-2 「佐伯城跡」の適切な維持管理の継続
- ② 佐伯藩に関わる歴史文化資源を活用した地域ブランドの強化
- ③ 歴代藩主や佐伯藩の歴史、領民の暮らし等を伝える佐伯市歴史資料館の収蔵資料の整理・公開の推進
- ④ 歴代藩主や佐伯藩の特徴に関する調査研究と情報発信の継続
- ⑤ 旧城下町の景観整備の推進
- ⑥ 歴史文化資源を活用した観光・イベントの継続的な実施
- ⑦ 歴代藩主や佐伯藩の特徴をテーマとした講座・教室等による情報発信の推進

3-8 「初代佐伯藩主 毛利高政」の課題と方針

【課題】

- ① 佐伯藩初代藩主 毛利高政の出自や個性を伝える情報発信が不十分
- ② 毛利高政がとった、環境保護も視野に入れた漁業施策に関する情報発信が不十分

- ③ 毛利高政の経歴や施策に関する調査・研究が不十分

【方針】

- ①-1 毛利高政の人物像に関する情報発信の推進
- ①-2 毛利高政をテーマとした講座・教室等による情報発信の推進
- ② 毛利高政の漁業施策に関する情報発信の推進
- ③ 毛利高政に関する資料の整理と調査研究の推進

3-9 「文教のまち 佐伯と先哲」の課題と方針

【課題】

- ① 佐伯藩8代藩主 毛利高標が収集し、佐伯藩の文教施策や日本の近代化に貢献した、「佐伯文庫」に関する調査研究や情報発信が不十分
- ② 佐伯から多くの先哲が輩出されているにもかかわらず、彼らの功績に関する情報発信が不十分

【方針】

- ① 「佐伯文庫」に関する詳細調査の実施
- ② 佐伯の先哲に関する情報発信の推進

3-10 「多彩な芸能・行事の多様なルーツ」の課題と方針

【課題】

- ① 少子高齢化・人口減少による、地域に伝わる伝統芸能・行事の担い手不足への対策が不十分
- ② 継承が困難な伝統芸能・行事の適切な記録保存が不十分

【方針】

- ①-1 伝統芸能・行事を継承する機会の創出
- ①-2 伝統芸能・行事の保存・継承活動の支援
- ② 緊急性に応じた適切な記録保存の実施